



よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

蔵通信 二八号

2011.11

発行：絵金蔵運営委員会
発行日：2011年11月1日
〒781-5310
高知県香南市赤岡町538
Tel.Fax 0887-57-7117
ekingura@mxi.netwave.or.jp
http://www.ekingura.com/

シリーズ
絵金百話
第二十七話 夢まぼろしの如く



INFORMATION

shop information



前村洞和「寒山拾得図」(高知市・称名寺蔵)
はがき 1枚 100円

絵金蔵オリジナルはがきに
新柄が登場しました。絵金の師、
「前村洞和」による水墨画で、仲良く片を寄せ
満面の笑みを浮かべた寒山・拾得の2人を配した図柄
です。本物の大胆で生き生きとした筆づかいをお伝えしたく
ドーンと大きめに配置しました。

新グッズ、登場していま〜す。



浴衣地を使ったブックカバー
(しおり付き) 1つ 780円



ウール着物を使った
マイ箸袋 500円



着物の帯や裏地を使った
ヘアゴム 1つ 300円〜

絵金蔵ボランティアのおばあちゃんたちによる
新しいグッズが生まれています。ご寄付いただいた
着物や浴衣の生地を使った布小物たちのシック
な色合いで、普段使いにも活躍まちがいナシ!
売り上げは芝居絵屏風の修復・保存活動にあてさ
せていただきます。

ショップのみもご利用いただけますので、ぜひ
のぞきにいらしてくださいね!

EKINGURA
one-year
passport



絵金蔵にて
年間パスポート、
はじめました。

特典多数!
詳しくは絵金蔵まで。

まちの素敵を探して、歩いて。

★町歩きカバンをお貸しします★

参加方法 絵金蔵受付にて参加受付。受付
表に名前を記入し、町歩きセッ
ト一式が入ったカバンをお受け
取りください。
※ 荷物預りあり(無料)

受付時間 午前9時〜午後3時半
(絵金蔵閉館中)
午後4時半までに絵金蔵にお戻り
ください

参加料 300円(ラムネ代込み)

お問い合わせ

絵金蔵 TEL.0887-57-7117

※ 団体の場合は要予約



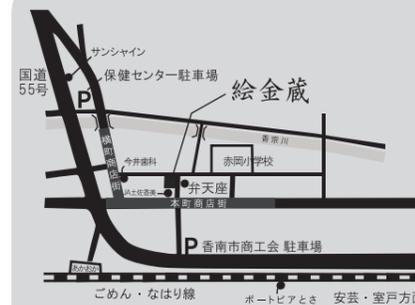
あかお
カルタで
町歩き

【絵金蔵】

開館時間
午前9時〜午後5時
(入館は午後4時半まで)

観覧料
大人500円、高校生300円
小・中学生150円
(15名以上の団体は各50円引き)

休館日
毎週月曜日
(月曜が祝日の場合は火曜)
12月29日〜1月3日



幕末土佐の芝居絵師・金蔵
(通称・絵金)。彼は土佐
各地の祭礼に多くの芝居絵
屏風を残しました。絵金蔵
は、平成17年2月、赤岡の
地に残る23点の芝居絵屏風
を収蔵・保存するために作
られた施設です。

絵金蔵の三つの使命

：年に一度
絵金の文化を
守るため
：伝承
の世代へ
伝えるため
：縁結び
地域を超えて
世代を超えて

絵金百話

第二十七話 夢まぼろしの如く

いちのたにふたばぐんき くまがいじんや 一谷嫩軍記 熊谷陣屋

< 概要 >

『一谷嫩軍記』は宝暦元年（1751）年12月、大阪・豊竹座にて時代物の人形浄瑠璃として初演されました。並木宗輔・浅田一鳥・浪岡鯨児・並木正三による合作で、立作者*1である並木宗輔が3段目までを書いて没したため、後に浅田一鳥他が完成させたと伝えられます。この作品が近松門左衛門以後、最大の浄瑠璃作者*2と称される宗輔の絶筆となりました。

本作は『平家物語』を世界*3とし、一の谷合戦における岡部六弥太と平忠度、熊谷次郎直実と平敦盛の戦いを中心に脚色されています。初演の翌年には江戸・中村座、同・森田座において歌舞伎でも競演されました。現代においても、熊谷と敦盛を描いた3段目「熊谷陣屋」はたびたび上演される時代物の代表作となっています。

熊谷と敦盛の須磨浦での一騎打ちは、美しく優れた若者までも討たねばならぬ武士の世をはかなんだ熊谷が出家する契機となり、世の無常を表す題材として能や幸若舞*4などに取り上げられました。本作では熊谷が敦盛を討ったと見せかけて、実は息子小次郎の首を身替りに討つという筋書きになっており、愛と義の狭間にあるその苦悩がいつそう強調されています。

歴史上の熊谷次郎直実（1141—1208）は平直貞の次男で、勇猛な関東武者として名を馳せました。鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』はその激しい気性を伝えています。同書によれば熊谷は伯父・久下直光と所領争いとなりますが、主人である源頼朝の眼前で名誉を傷付けられ、憤りのあまり髻を切って出奔しました。のちに浄土宗開祖・法然（1133—1212）に帰依し法力坊蓮生と名乗ります。出家後、老母の見舞いの帰り、東向きに帰ると西方浄土の阿弥陀様に背を向けることになるため、馬上では後ろ向きに乗って「浄土にも豪の者とや沙汰すらん、西に向いてうしろ見せねば」と詠んだという、一途な熊谷らしい話が伝えられています。息子・直家は実際は一の谷で戦死することなく源頼朝に重用され、承久3年（1221）53歳で没しています。

今回ご紹介する芝居絵屏風は、香南市香我美町・浅上王子宮に伝わる作品の一つです。現在祭礼には飾られていませんが、かつては拝殿風の絵馬台を境内に立てて両面にはめて飾られました。当社に残る2つの箱書には「文久元年（1861）唐紙箱 前田若連中」「文久二年六月 池ノ本若連中」とみえ、地域ごとの若い衆が奉納を競いあったと伝わる当時の様子が偲べれます。本作もどうぞお楽しみください。

*1 座付き作者の筆頭で、全体の筋立てや最も重要な幕の執筆、要所の趣向、各場面の作者の割り当てなどを行う者のこと。
*2 参考『並木宗輔展—浄瑠璃の黄金時代—』早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 平成21年12月
*3 歌舞伎・人形浄瑠璃において作品の背景となる時代・事件のこと。
*4 能や歌舞伎の原型となる語りを伴う舞いで、室町時代に流行しました。

映像案内

もっと楽しむ

土佐の泥繪師 繪金

DVD



「土佐の泥繪師 繪金」
(とさのどろえしえきん)
企画・製作：前田プロモーション
DVD 製作・販売：映像ハズル・ビデオプロジェクト
TEL: 03-5996-9426 (Fax 9428)
E-mail: hanuihouse5996@yahoo.co.jp
定価 ¥6,000

1986年に発表された80分のドキュメンタリー映画。最近DVDが発売されました。監督は前田憲二、ナレーターは三国連太郎。絵金の作品や足跡のみならず、土佐の風土や歴史を丁寧に追いつながりながらその波乱に満ちた人生と人間像に迫る、見応えたっぷりの作品です。

繪金伝説

幕末土佐を生きた闇の絵師

NHK 番組



「繪金伝説〜幕末土佐を生きた闇の絵師〜」
再放送 12月20日（火）午前9:30～
NHK BSプレミアム『BSアーカイブス』
制作：かわろそ商会・NHK エデュケーショナル

2008年に放送された、絵金の謎と魅力を追う90分のドキュメンタリードラマ。ナレーターは江波杏子、俳優・浜田学出演。赤岡を中心に口ケが行われ、鷹赤児、坂東三津五郎ほかのインタビューも収録されています。第26回ATP賞テレビグランプリ優秀賞（ドキュメンタリー部門）受賞。

VHS

闇の中の魍魎魎魎



「闇の中の魍魎魎魎」
(やみのなかのちみもうりょう)
絶版。ネット通販アマゾン等で中古販売。
http://www.amazon.co.jp

1971年発表。榎本滋民『血みどろの絵金』を原作とし、若き絵金が太々しい生命力に満ちた町絵師になるまでの道のりを描く。監督は「狂った果実」で知られる土佐ゆかりの中平康。主役・金蔵の鷹赤児はじめ、扇ひろ子、加賀まりこ、江守徹らの鬼気迫る演技も見どころ。ロケは赤岡はじめ、高知県各地で行われました。

VHS

ちんなねえ BORN TO BE BABY



「ちんなねえ BORN TO BE BABY」
製作：高知県・高知県立美術館ほか
高知市民図書館にて貸出・視聴可能。

1997年発表。高知県立美術館第2弾製作映画。海外でも評価の高い鷹赤児と大駱駝艦の舞台『トナリは何をするぞ』をフィーチャーした異色のアート・ドキュメンタリー。監督は「CAT'S EYE」の林海象。俳優・原田芳雄友情出演。タイトルの「ちんなねえ」とは、土佐弁でおかしいねえ、の意味。

広川 絵麻 Ema Hirokawa

沖縄や岐阜で陶芸を学んだあと、帰郷。高知や愛知、岐阜などの土を混ぜ、釉薬を用いたガス窯による作陶をなさっています。土の配分や釉薬の厚みなど、ちよつとしたことで変わる色や風合いに惹かれているという広川さんの器。使いこむうち少しずつ変化していく、その表情も魅力的です。

◆広川さんの器が買えるお店
ギャラリーM2
住所：高知市はりまや町2-8-12
電話：088-885-4689
うつわ sousou
http://sousou68.cocolog-nifty.com/



広川さん作
抹茶茶碗と菓子皿

廣谷 ゆかり Yukari Hirotani

高知市北部、山間の旧鏡村で窯窯（あながま）焼成による焼締めを作られています。愛媛県出身の廣谷さんは、他にも砥部の土を使い、指人形や創作した物語に合わせ登場人物などを手作した作品、「畝」というお名前前で陶の根付も手掛けるユニークな作家さんです。

◆廣谷さんの器が買えるお店
海花 布土木（はなぶどき）
住所：高知市はりまや町2-8-8 あんどうビル2F
電話：088-884-2296



廣谷さん作
ホットコーヒーのカップ&ソーサー

繪金蔵サロン
器も楽しむ

絵金蔵に入ってますぐの土間ホールには、お客様にゆっくりいただくと、お客様にペースがあります。温かいコーヒーや抹茶の器は二人の女性、広川絵麻さんと、廣谷ゆかりさんの作品。

お二人とも高知を拠点に、全国各地で活躍されています。開館以来、約6年間使い続けていますが、使うほどに深い色味、しっとりとした艶があらわれ、味わいが増してきました。絵金蔵にお越しの際は、飲み物と器もぜひお楽しみください。





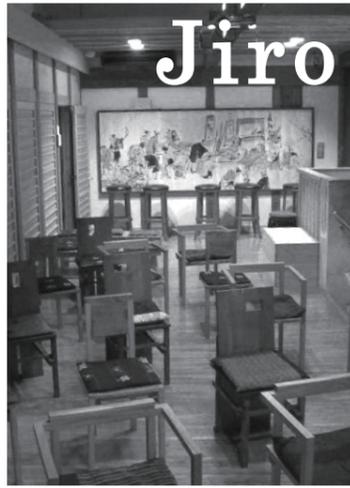
空間デザイナー 木村二郎氏の作品による少人数の山梨・カラス トラックス制作による展示。写真提供：木村二郎氏



Jiro Kimura

木村二郎

—最後の仕事—



卓越した空間デザイナー・木村二郎氏。古材を使った家具の先駆的な作家として知られ、モダンでありながら温かいそのデザインと斬新な空間プロデュースは多くの人々から愛されました。絵金蔵の家具は二郎氏の作品ですが、残念ながらこれらの作品が二郎氏の最後の仕事となりました。

絵金蔵での仕事は、旧赤岡町時代のまちづくりワークショップから絵金蔵建設に至るまでデザイナーとして関わった梅原真氏が依頼。二郎氏は2003年に病をおして来高され、この空間のために古材と鉄を使った椅子やテーブルをデザインし、2004年2月9日、56歳で亡くなりました。

しかしながら、その早すぎた死を惜しむ人々によって2009年には回顧展が開かれ、写真集等も発売されました。また二郎氏が1993年にオープンさせた八ヶ岳山麓のギャラリートラックスは今もその遺志を継ぎ、若手アーティストの発信基地として活発な活動を行っています。二郎氏の心を語る、よみがえった家具たち。新しい空間でまた静かに年月を重ねています。

絵金蔵には、今も二郎氏を慕う若者が訪れます。

木村 二郎 1947-2004

大阪生まれ。大阪でインテリアデザイナーとして活動した後、煩雑な生活から離れ山梨県八ヶ岳山麓、築130年の農家に移り住む。以来オブジェや家具、空間デザインなどの仕事を次々と発表。八ヶ岳の大自然のなか、廃屋の梁や農具などの素材から生み出されるこれまでにない家具が注目を集め、『別冊太陽』ほか多くのメディアに取り上げられる。2004年、膵臓癌のため逝去。

愚かなルールに屈するな
自分自身であれ
服従しない 攻撃しない
いいバランスを見つけよ
言葉はない
あるのはヴァイブだけ

『+Re JIRO』より

- 個展 1996年J Mギャラリー（東京）、1997年ギャラリー AOKI（静岡）、2000年OZON（東京）、2004年J Mギャラリーほか
- 主なデザイン店舗 ギャラリーせい（東京）、ギャラリー歩（山梨）、カフェレストラン曇眠（山梨）、ギャラリー&カフェスターネット（益子）ほか多数

参考 +Re JIRO プロジェクト
http://www.tsugane.jp/re_jiro/

ギャラリートラックス
〒408-0017
山梨県北杜市高根町五町田 1245
Mobile. 080-5028-4915
E-mail: trax@eps4.comlink.ne.jp
<http://www.eps4.comlink.ne.jp/~trax/frame.html>



木村二郎の家具写真、スケッチ、言葉などをミニマムにまとめた冊子 1冊 ¥600



木村二郎の作品写真集写真/大森克己 デザイン/角田純 1冊 ¥1260 (在庫僅少)

購入をご希望の方は送付先を明記のうえ、eメールもしくはお電話にて、ギャラリートラックスまでご連絡下さい。代金は本と同送の郵便振替用紙にて、メール便にて発送されます。

敦盛と熊谷

熊谷直実と平敦盛の戦いは『平家物語』における武将たちの悲劇のなかで、最も涙を誘う哀話です。今回取り上げた『一谷嫩軍記』ほか、数々の物語に描かれました。画題としても人気で、絵金もその姿を描いています。勇猛果敢な熊谷と、美しい若武者敦盛。二人を描いた物語と、絵金による白描画をご紹介します。

人間五十年、化天の内を比べれば、夢幻のごとくなり。一度生を受け、滅せぬ物のあるべきか。これを菩提の種と思ひ定め、東山黒谷に住み給ふ法然上人を師匠に頼み奉り、元結切り、西へ投げ、その名を引き変へて、蓮生房と申。

幸若舞『敦盛』

敦盛を討った熊谷が、人間の五十年は化楽天の八千年に比べると幻のようにはかないと嘆じ、出家を決意する場面。織田信長が愛したことで知られる幸若舞です。



絵金筆「熊谷直実」香南市個人蔵

出会いと別れ

取つて押さへて首をかかんと内甲を押しあふのけて見ければ、年の齢十六七ばかんなるが、薄化粧して金黒なり。我が子の小次郎が齢ほどにて、容顔まことに美麗なり。…熊谷あまりにいとほしくて、いづくに刀を立つべしとおぼえず、目もくれ心も消え果てて、前後不覚におぼえけれど、さてしもあるべき事ならねば、泣く泣く首を掻いてんげる。

『平家物語』巻第九 敦盛最期



絵金筆「敦盛」香南市個人蔵

出家し僧・蓮生となった熊谷(ワキ)は、須磨の浦で敦盛(シテ)の霊と出会う。蓮生の用により敦盛は恨みを捨て、極楽では共に同じ蓮に生まれる身になろうと述べて消え去る。

シテ いかにも蓮生。敦盛こそ参りて候えワキ 不思議な急鐘を鳴らし法事をなして。まどろむ隙もなきとこころに。敦盛の来たり給うぞや。さては夢にてあるやらんシテ 何しに夢にてあるべきぞ。現の因果を晴らさんために。これまで現れ来たりたりワキ うたてやな一念弥陀即滅意量の。罪障を晴らさん称名の。法事を絶えせず功に。何の因果は荒磯海の。深き罪をも平い浮かめワキ 身は成仏の得脱の縁シテ これまた他生の功力をればワキ 日ごろは敲シテ 今はまだワキ まことに法の友なりけり

謡曲『敦盛』

— あらすじ —

一の谷合戦後の須磨の浦、熊谷直実の陣屋に初陣に出た息子・小次郎の身を案じる熊谷の妻・相模と、捕手に追われた平経盛の妻藤の局が現れます。

相模と藤の局は旧知の間柄、昔を懐かしみながら互いの近況を語るうち、熊谷が藤の局の息子・平敦盛（実は白河上皇のご落胤）を討ったことが分かります。藤の局はかつて熊谷夫婦を助けたことを引き合いに、相模にその恩を覚えているなら熊谷を討たせるよう迫ります。驚く相模、ひとまず夫が帰り次第、まずは様子を聞いてから、となだめすかします。

やがて墓参りから帰った熊谷は、相模が女の身で陣中へ来たことを一旦はとがめますが乞われるままに小次郎の初陣の様子、敦盛を討ち取ったことを語ります。

その一部始終を聞いた藤の局は後ろから熊谷に斬りかかりますが、相模のとりなしにより、敦盛をやむなく討たねばならなかつたいきさつ、敦盛の健気な最期の様子を詳しく聞きました。

藤の局は嘆き悲しみながらせめて一目敦盛の首を見たいと言いますが、熊谷がそれをはねのたところへ熊谷の主人・源義経が現れ、その場で首実験となります。熊谷は義経が立てさせた軒先の制札を抜き取り、制札の心を察して討ったこの首をよく見て欲しい、と差し出します。義経によくぞ討ったと称えられたその首は、敦盛ならぬ、熊谷の息子・小次郎の首でした。

この後、熊谷は世の無情を悟り、僧となって小次郎の菩提を弔う旅に出てゆくのでした。

■ 其の訳を…。

息子を気遣うあまり、禁ぜられていた陣屋を訪れた熊谷の妻、相模。夫から敦盛を討ったと聞かされ、「エ、これ直実どの、敦盛様は院のお胤と知りながら、どふ心得て討たしやんした。様子が有ふ其のわけを」と、おろおろした様子で涙ながらに夫に問います。

■ 義経^{これ}にて見やうずるは。

熊谷の心中、犠牲を全てのみ込んだ上で「ヤア直実、首実験延引といひ、軍中にて暇を願ふ汝が心底いぶかしく、密に來たりて最前より始終の様子はサ奥にて聞。急ぎ敦盛の首実験せん。」と声をかける源義経。

■ 我子の敵^{かたき}！

熊谷に飛びかかり、相模に敵討ちの助太刀を迫る敦盛の母・藤の局。かつて不義の間柄であった熊谷と女官の相模をかばい、東国へ逃がしたことを持ちだし、その恩に報いるため、熊谷が帰ったら自分に討たせて欲しいと相模に頼んでいました。

■ こは思いがけなき御対面。

斬りかかってきた女が敦盛の母・藤の局であることを知り驚く熊谷直実。敦盛の顔を見たとき、同じ年頃の小次郎のことが思い出され「早落給へ」と勧めたこと、しかし「一旦敵に組みしかれ何面目にながらへん。早首取よ熊谷」と言う健気な敦盛の言葉になおもためらったが、そんな様子を味方に見られ裏切りを疑われたため、是非に及ばず首を討ったと語ります。

物語る小道具
～ 陣屋の幕 灯鳩 ～

陣屋の幕に染められた「灯鳩（鳩ハ）」の紋。熊谷家の家紋「寓生鳩」の寓生（ヤドリヤ）を省略した形です。

■ 馬上ながら、むんづと組み。

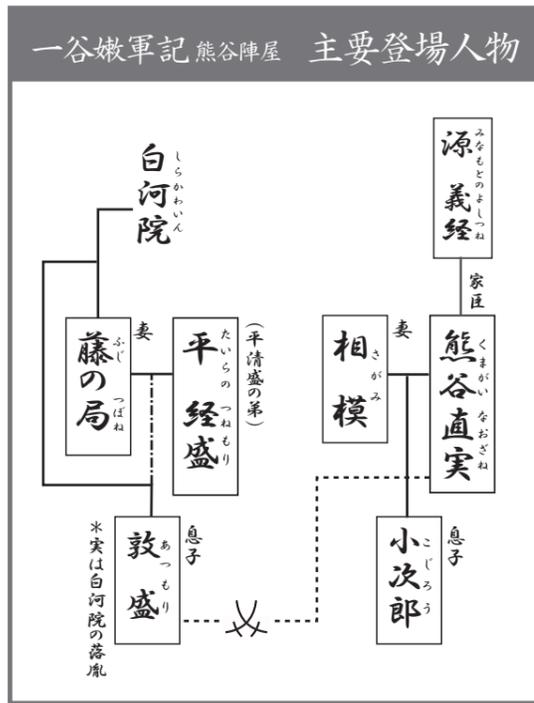
場面が熊谷陣屋に移る前、一の谷合戦の場面。「ハテ健気成若武者や。逃る敵に目なかけそ。熊谷是に控へたり。返せ。戻せ。ヲ、イ。おいと。扇を持って打ち招けば。駒の頭をま直し。彼の打物二打三打。いでや組んと馬上ながらむんづと組。両馬が間にどうど落。」

物語る小道具
～ 桜と制札 ～

本作の季節は春、初段堀川御所の場で義経は熊谷に命じ「一枝を伐らば一指を剪るべし」と記した制札を桜の若木の元に立てさせました。この熊谷陣屋の場面で、制札が桜になぞらえた敦盛を守護せよとの熊谷へのメッセージであったことが分かります。



コリヤ熊谷、軍のならひとは云ながら、
年はも行ぬ若武者を、よふむごたらしう
首討たな。サア約束じや相模、助太刀
仕て夫を討せ、サ何と！



【参考文献】
*1 『日本古典文学大系99 文楽浄瑠璃集』岩波書店 1972年11月
*2 『歌舞伎事典』平凡社 1993年4月
*3 『歌舞伎登場人物事典』白水社 2006年5月

*4 『絵金 土佐の芝居絵と絵師金蔵』高知県立美術館 1996年
*5 鍵岡正謹・吉村淑甫『絵金と幕末土佐歴史散歩』新潮社 1999年5月